

児童生徒数 122,215人

(平成17年5月1日現在)

おやごころ

第87号

平成17年9月30日発行
山口県PTA連合会

〒753-0072

山口市大手町2-18

教育会館内

☎(083)925-6778

<http://www.yamaguchipta.jp/>
yamaguchipta@mx51.tiki.ne.jp

守ろう！ 地域と共に！



くぼ
下松市立久保小学校

山口県PTA指導者研修大会

岩国大会のご案内

「子どもの笑顔が
みえますか」

～まなざしと瞳をつなぐ架け橋～



平成17年11月27日(日)
主管：岩国市PTA連合会
シンフォニア岩国

会長就任
あいさつ



平成17年度
山口県PTA連合会
会長 松井 繁之

立ち上がれ P T A

昨年度は「子育てに関する調査報告書」や「子どもの遊びを通した心の居場所」アンケートなど貴重な調査結果を残せた年でした。各委員会の皆様のお陰と感謝しております。

調査の結果、子ども達の心のありようや生活が少し見えてきました。著名な大学教授の報告では「最近の子ども達は、他の人を自分の中にとっぴりと取り込んで考える力のない子が増えている」とのことです。アンケート調査でも「一緒に遊ぶ友達がいますか？」の問いに「いない」と答えた人が中2男子では34%、女子では25%で、「いない」と答えた人の中で「一人で遊ぶ方がいい」と答えた人が男子では28%、女子12%と、ここでも他の人と関わることを嫌う子どもが多いという結果がでてきています。

最近、青少年の起こす問題事件でも、子どもの「人と関わる能力の低下」や「メディアの悪影響」など危惧する点があります。PTAは子ども達の一番近くにおいて、子ども達を見守り、成長を助け、有害な環境から守ることができる組織ではないでしょうか。今こそ、結束して諸問題の解決に本腰を入れなければならない時です。共に頑張らしましょう。

実感！体感！アメリカ感！

単語を何百回も調べ英語が聞き取れるように・・・

萩東中学校 2年 田村 源元

約2週間のホームステイを通して、僕は貴重な体験をすることができた。

1つ目に、言葉の違いについて深く感じた。僕は英語を習い始めて、1年と少ししかたっていなかったの、最初はほとんど英語を理解することができなかった。辞書を片手に持って、うまくコミュニケーションをとろうと、単語を何百回も調べに調べた。ホームステイが終りに近づくころには、英語が聞きとれるようになり、コミュニケーションがとれる楽しさを感じられるようになった。ネイティブのように英語が話せればどんなに楽しいか、どれほど世界が広がるか、また、可能性がいかに広がるか、と考えるとわくわくしてきた。だから、英語をもっと勉強したいと思う。

次に感じたことは文化の違いだ。

特に思ったのは、学校の様子が日本とは全く異なる。日本では、先生対生徒という感じなのに対して、アメリカでは、先生対個人という感じがした。学校の雰囲気は自由だった。お菓子を食べながら授業を受けているのには大変おどろいた。校内に売店があったことは、日本では絶対にありえないことなので信じられなかった。アメリカでは自由だけど、自由の裏側には「個人の責任」がついてくることを考えると、文化の違いはここから生じてくるのかなと思った。

ホストファミリーは、僕にとっても親切にしてくれて、大変気を使ってくれた。家はとても広くて、プレイルームがあり、大きなスクリーンのテレビがあったりして、とても楽しかった。食事はたいへんおいしくて、量は多いけれどいつも楽しんで食べられた。すばらしいホストファミリーに出会えて、大変感謝している。この経験を、いろいろな面で生かしていきたい。

困ったこと

空港で、日本円からドルにかえることができると思っていたけれど、団体行動だったので、お金をかえることができなかったのが困った。

保護者の感想

細部にわたりいきとどいたプログラムのおかげで大変よい経験をさせていただいたと感謝しております。
“一人で”ということがプレッシャーになり、けれど自信に変わったことを確信しております。
事あるごとに“アメリカはたのしかった”と口にするたびにそのを感じています。有難うございました。

・グリーンティー・日本庭園のミニチュア・萩焼・折り紙、千代紙・和風の鏡・コンペイトウ・便せん・お財布・日本のチョコボール



山口県PTA連合会 第13回海外体験学習

今年度募集

アメリカ体験学習

2006年3月27日(月)～4月7日(金)

第27回

全国小中学校PTA広報紙コンクール入賞校一覧

- 文部科学大臣賞 《さくらぎ》
周南市立桜木小学校PTA
- 日本教育新聞社社長賞 《ふれあい》
周南市立周陽中学校PTA
- レイアウト賞 《りょうじょう》
山口市立良城小学校PTA

○緊急連絡や学校・PTAからの行事の案内をメールで会員に知らせることのできるPTA独自で行われている**「メーリングリスト」**(ネットワーク)の充実
○地域のシルバースペースを中心とした「**見守りボランティア**」の立ち上げ
絶対的に許すことのできない子どもを狙った犯罪を未然に防ぐため、家庭・学校・地域が一体となり協力しあひながらこれからも取り組んでいきたいと考えております。



昨年度PTA教育講演会行事として「ひだまりCAP(キャップ)やまぐち」の方をお呼びし、全職員・全児童・保護者と地域の方それぞれに対応したワークショップ(体験的な講演・指導)を行いました。CAPとは子どもへの暴力防止の略で、アメリカで作られたプログラムをもとにして、日本でも各地で活動が広がっています。いじめの場面や誘拐の場面で暴力の場面などの寸劇を通して子ども達にどのように対処していけばよいかを分かりやすく伝えます。CAPのプログラムは自分を大切にする気持ちを育てる人権教育だと感じました。子ども達は自分自身に生きる権利があることを再確認できたようです。

また、PTAでは、「もつと子どもを見守り、育てていこう」という意識が家庭や地域で高まるような活動にも取り組んでいます。

「子どもたちの登下校のお供をしたいんだが」「近所の子どもの顔を覚えたいんだが」と老人会の方々、「通学路の危険箇所を洗い出しているんだが」と児童民生委員の方々。子どもたちの安全を守る取組が広がっています。

「子ども110番の家」の見直しが一昨年度行われ、校区ごとのマップにして、町広報紙で全家庭に配布された。

また、小郡町内3小学校PTA会長を中心に進められた「**見守りカー**」(動く子ども110番の家)についても、公用車以外への広がりが目覚ましいです。

町から派遣の環境整備員7人、8人が輪番で、子どもたちの登下校を下校まで、校門周辺を中心に校地内を終日巡回している。一昨年度、1日4時間から始まったこの制度が、今年度8時間態勢になった。最初はとまどい気味であった子どもたちも徐々に慣れ、元気な声であいさつできるようになった。

ひだまりCAPやまぐちを呼びワークショップを開催
井関小(阿知須)



子ども達の登下校中、下校してからの時間帯に、買い物や犬の散歩などの外出時に腕章を着け、子ども達に声をかけることにより、子ども達が安心してのびのびと暮らしていける環境を作っていくと考えております。

生野小学校では、平成16年度より、子ども達が安心して暮らせる街をつくらうという願いから、校区の住民の皆様のご協力のもと「子ども守り隊」を結成しました。

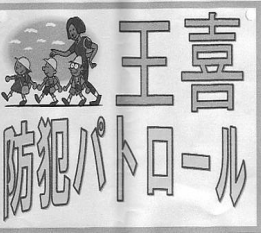
本格的な活動といたしましては、16年度の2学期から、保護者の方々や教職員を始め、地元のお店主さんで作る幡生商工共済会、自治会、社会福祉協議会などを含む総勢120名でスタートしました。

「**子ども守り隊**」の活動は、隊員の日常生活にそって実施しています。外出の時などには、腕章を着けて危険な目に遭った子どもを助けたり、相談に乗ったりすることを中心に行っています。

子ども達の登下校中、下校してからの時間帯に、買い物や犬の散歩などの外出時に腕章を着け、子ども達に声をかけることにより、子ども達が安心してのびのびと暮らしていける環境を作っていくと考えております。

これらは、地域の皆様方の継続的なご協力があれば成り立たない活動であるため、「子ども守り隊」の輪をさらに拡げていくために、さらに幅広い呼びかけを推進しようと考えていると考えています。

地域の人たちの「見守りカー」が広がりを 上郷小(小郡)



最近、児童をめぐる犯罪が、頻繁に報道されています。王喜小学校区内、また近隣の地域においても不審者による児童への声かけ事案等が発生しています。今や児童を巻き込む犯罪は、場所を選ばずに起きている。

そこで、王喜小学校PTAでは、平成16年度より児童の登下校時の安全確保のために防犯活動を展開することになった。それは、学校・家庭・地域が一体となって活動することにより、地域全体が防犯活動に取り組んでいるという環境を作り、不審者から児童を守りたいという思いがあるからである。

「活動内容」

- 一 防犯パトロールステッカーの活用
・防犯パトロールステッカーを作成し、PTA各家庭の自家用車に貼り付ける。
・各自自治会へもそれぞれ五枚程度配布し、車に貼っていた。
- (取り付け、取り外しが簡単にでき、町内での走行時に活用していただく。)
- 二 通学路を地域の方々にお知らせする。
・通学路沿線の地域の方へあいさつ運動を展開することにより、児童と地域のの方々との信頼関係を築く。
・犬の散歩は、できるだけの通学路でお願いし、児童を見守っていただく。

できていますか？ 児童・生徒の安全確保

子どもたちの安全を守る活動としてPTAが主体となって地域ぐるみの学校安全体制の組織作りが整いつつあります。
今回の特集は数多くの学校で行われている中から8校選んで紹介させていただきます。

東岐波は宇部市の東に位置し、海に面した、1小学校1中学校を擁する校区です。『校区の子どもたちは自分たちで守ろう』という地域の方々の思いが強く、子どもたちが安全に過ごせるための様々な対策が講じられています。

朝の散歩を子どもたちの登下校に合わせて行う「**おはよう防犯隊**」、犬の散歩を子どもたちの登下校に合わせて行う「ワンパトロール」、老人会による「子ども見守りパトロール」等、地域をあげての活動が行われています。また、PTAとしては、協力員が地域のふれあい運動推進員の方々と月1回交通立哨をしています。他にも校区独自の街頭指導も毎月行われています。

もしも、子どもたちの安全を脅かす状況が起これば、それぞれの連絡網により情報が共有され、登下校時のみならず、すぐに活動するというシステムになっています。このように、小・中学校の情報共有はもちろ、地域の交番とも連絡を密にとり、学校、地域、PTAが一丸となって子どもの安全を守っています。

登下校に合わせてワンワンパトロール 東岐波小(宇部)



国民安全の日の7月1日、約一か月余りの準備期間にPTA会員一三六名、地域の方50名を集め、地域安全ボランティア「**明倫小見守り隊**」が正式発足いたしました。

これまでもあいさつ運動に取り組んで参りましたが、昨今の社会環境の悪化は、出会った人にはあいさつせよと、自信を持って子どもたちに求めることを難しくしています。

そこで、子どもたちが安心して関わり合いをもてる存在として、登下校や放課後に子ども達と、散歩や買い物などの外出の折にもワッペンをつけ、あいさつや安全指導等の声かけをする運動を推進しようと考えました。時間や場所を決めて取り組むのではなく、個人の活動として都合の良い時に自然体で行い、子どもの健全やかな成長に関わることを生活の一部にしたいと考えております。

この輪の広がりが、萩の街角のいたるところで子どもと大人の笑顔の交換が行われることを夢見ながら、ワッペンを手作りにしています。

「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」

県内すべての地域で スクールガードの組織をめざす

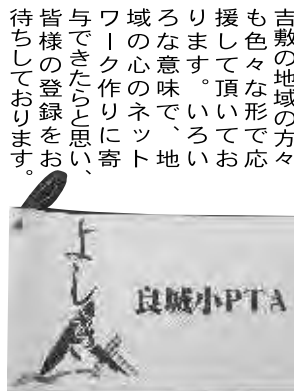
山口県教育委員会

子どもが被害者となる事件、事故が大きな問題となっている近年の状況を踏まえ、子どもたちが安心して教育が受けられる学校、安心して暮らすことができる地域づくりのために、学校、家庭、地域の関係機関・団体が連携しながら、子どもの安全確保に関する取組みを一層充実する必要があります。

平成17年2月末現在、県内の3分の1の小中学校に、学校や地域の実情に応じて、地域の人々の自主的自発的取組みにより、子どもたちの安全を守る組織(学校安全ボランティア=ス

ルガード)がつくられており、その後も各地域で新しくスクールガードが組織されています。県教委では、本年度より、文部科学省委嘱事業として「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」を開始し、県内のすべての地域にスクールガードを組織し、子どもの安全・安全を守る取組みの一層の充実をめざしております。

今後引き続き、PTAの皆様をはじめ地域の関係機関・団体の特段の御協力を、お願いいたします。



「本日の下校は平常どおりです。万一に備え：」先日の不審者情報に基づく対応を、登録者に一斉送信したメールです。情報は、学校に警察や市及び教育委員会から入ってきたものです。下校時には、先生方がセーフティジャンパーを着用の上、一緒に付き添っていただきました。保護者の皆様も所要所に立哨していただいております。本当に頭の下がる思いでした。感謝申し上げます。

他校では、この情報を如何にして伝達するかで苦心されたそうです。事件事故は突然起こります。従来の電話連絡網が今日迅速に対応しきれないことは既に実感されているでしょう。緊急時には、紙面による子ども便所準備が出来ないのが実情です。

しかし、このシステムは、全員に等しく情報を提供することは出来ません。あくまでも登録者のみです。今では学年単位の情報も発信しております。将来的には、クラス単位での活用が出来れば、先生保護者双方の意志の疎通がより深く図れるのではないかと期待しております。

吉敷の地域の方々も色々な形で応援して頂いており、いろいろな意味で、地域の心のネットワーク作りを寄与できたと思ひ、皆様の登録をお待ちしております。

いざ、出陣！子ども守り隊
生野小(下関)

PTAと地域で取り組む安全対策
王喜小(下関)

少年安全サポーターの活動
萩東中(萩)

散歩や買い物にワッペンを
つけ、声かけ
明倫小(萩)

セーフティネットワークに
期待する
良城小(山口)

ふるさとクリーン作戦で拾ったものは...

萩市立田万川中学校

たまがわ



道路沿いにはたばこの吸い殻や空き缶が

コミュニティ・スクールとは、保護者や地域の皆さんが「権限」と「責任」を持って運営に参画する新しいタイプの公立学校です。本校は、平成17年4月に文部科学省より調査研究校の指定を受け、「田万川中学校コミュニティ・スクール推進委員会」を立ち上げ、研究を進めることにいたしました。



田万川中学校

ポイ捨てする人はゴミといっしょに心も捨てているのではないのでしょうか。落としたゴミはだれかが拾ってくれるけど、落とした心はだれも拾ってくれません。作業を終えて、委員の方から、お互いに話をするのがあまりできなかったとの反省が出ました。それだけ一生懸命作業したのでしょ



ゴミはだれかが拾ってくれるけれど

2の510校

きらら

二島小学校



異年齢集団あそび

このように二島小の子どもたちは、地域の方々のホットなサポートを得て、生きる力を身につける活動の選択肢をたくさん持ち、一人一人の夢が実現できるよう意欲的にがんばっています。



サテデープラン
(日本舞踊)

さらに二島地区では、地域のすべての人が気軽に参加できるコミュニティクラブがあり、子どもたちも積極的に参加しています。

また、毎月第二土曜日には、地域の方が指導者の「サテデープラン」というクラブ活動に多くの児童が参加し、幼稚園児や中学生とともに活動をしています。料理、日本舞踊、物づくり、パソコン、バトミントンなど8つのクラブがあり、子どもたちはとても楽しみにしています。

校内では異年齢集団のとらえ直しを行い、毎日の掃除、月一回のたてわり給食・遊びなど、縦割り班編成での活動を多く取り入れています。「ふるさと学習」では昔の遊びや道具づくりを通してお年寄りと交流します。さらに給食をいっしょに食べ、ふれ合いを深めます。

今年7月、下校時に見回りをするボランティア活動として「二島みまもりたい」が発足しました。学校・家庭・地域の三者と関係団体が連携しあつて、9月から活動を始めます。



ふるさと学習（お年寄りとのふれ合い）

二島は秋穂半島の西部一帯の地域を占め、西に山口湾を抱いて風光明媚、自然豊かな地域です。秋穂八十八ヶ所霊場の札所が各所に散在し、例祭日には多くのお遍路さんでにぎわいます。また、地域のふれあい活動が活発であり、教育に対する関心の高い地域です。現在、児童数は107人。少人数ですが、多様な人との関わりが学がたくさんあり、人間関係づくりの学

地域との連携によって育つ二島っ子

山口市立二島小学校

ふたじま

編集後記



いいぞ晋作!

スポーツ少年団の子どもが乗ってきた自転車ふと見ると自転車置き場で3、4台倒れていた。次にひとりて来た団員(晋作)がきちんとおこして練習場所に行った様子を見て、陰日向なしに行動できるやさしい気持ちにとてもうれしく思った。

県P連では、PTA活動中及び往復途上における障害補償対策として、PTAが主催もしくは共催する行事に参加して不慮の事故に遭い障害を被った保護者、教職員や児童生徒に対して補償しています。現在、全校加入されています。

山口県PTA安全互助会の補償概要

補償内容

	損保	互助会	計
入院	1日 900円	900円	1,800円
通院	1日 500円	500円	1,000円
死亡	100万円	200万円	300万円

	損保	互助会	計
後遺障害	100万円 ×率	200万円 ×率	300万円 ×率
賠償 (最高)	1事故1億円 1人3千万円	1事故1億円 1人3千万円	

◎PTA連合会や単位PTAが主催・共催するすべての行事で、出発時から帰宅時までの間に事故がおき、ケガなどされたときお支払いします。(会員の家族も対象となります。)

◎万一、死亡事故が多発した場合は、審査委員会において審議し、やむを得ず300万円を下回ることが起こるかもしれません。

◎賠償の免責は20万円です。

山口県PTA連合会
学校週5日制
の導入拡大に
ともなう保障
の空白を補う
24時間保障

- 個人賠償責任保障
他人に傷害を与えた時
- 傷害保障
ケガ・熱中症で入院した時
- 携行品保障
学用品などが破損した時
- 育英費用保障
扶養者が事故で万一時
- O-157保障
感染症にかかった時

お問い合わせ先
(制度引受会社) **AIU保険会社** 山口県PTA小学生総合保障制度統括本部
フリーダイヤル 0120-714-555